

令和4年4月
交 通 局

交通事業のあらまし

(令和4年4月)



京都市交通局

目 次

1 事業概要	1
（1）自動車運送事業（市バス）	1
（2）高速鉄道事業（地下鉄）	7
2 直近の経営状況	12
（1）1日当たりのお客様数の推移	12
（2）令和3年度の決算見込み	14
3 令和4年度事業計画	16
（1）運転計画	16
（2）予算概要	18
（3）主要事項	23
4 附帯事業	27
（1）駅ナカビジネス収入額の推移	27
（2）広告料収入の推移	27
5 職員数	28
6 機 構	29

1 事業概要

(1) 自動車運送事業（市バス）

ア 営業設備（令和4年4月1日現在）

（ア）路 線

	令和4年度(A)	令和3年度(B)	比較(A－B)
営業路線キロ	321.93km	318.53km	3.4km
バス専用レーン	86.6km	86.6km	—
停留所数	714停留所	714停留所	—
停留所標識数	1,632箇所	1,629箇所	3箇所
停留所間平均距離	410m	410m	—
運転系統数	74系統	81系統	(注1) ▲7系統

注1 運転系統数の減は急行系統及び京都岡崎ループを休止したものです。

（イ）バス停

	令和4年度(A)	令和3年度(B)	比較(A－B)
上屋	667箇所	656箇所	11箇所
ベンチ	898箇所	889箇所	9箇所
バス接近表示器	552箇所	550箇所	2箇所
照明	1,185箇所	1,183箇所	2箇所
バスの駅	69箇所	69箇所	—

(ウ) 車 両

	令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	比較 (A-B)
車両数	801両	816両	▲15両
うち低床車(バリアフリー対応車両)	801両(100%)	816両(100%)	▲15両
ノンステップバス	772両(96%)	787両(96%)	▲15両
ワンステップバス	29両(4%)	29両(4%)	—
うちアイドリングストップバス	801両(100%)	816両(100%)	▲15両
うちハイブリッドバス	59両(7%)	59両(7%)	—
うちラッシュ型車両	398両(50%)	372両(46%)	26両

注 ()内は、車両数に占める割合を示しています。

○車両における新型コロナウイルス対策



↑市バス全車両に抗ウイルス・抗菌加工を施し、上記ステッカーを車内等に掲出しています。



←新型コロナウイルス感染症対策として、以下の新たな仕様を採用した車両を58両導入しています。(令和4年4月1日現在)

- ・換気扇の増設(2台→3台)
- ・座席シートへの抗ウイルス加工生地の導入
- ・最前列の座席を荷物置場に変更

(エ) 事業所及び案内所等

○ 営業所及び出張所

名 称	所在地	敷地面積(m ²)	所属車両数(両)	
				うち委託 車両数
西賀茂営業所	北区西賀茂山ノ森町	9,963.86	109	—
烏丸営業所	北区小山北上総町	(注1) 15,251.40	88	—
錦林出張所(全部を管理の受委託)	左京区浄土寺真如町	5,058.34	44	44
九条営業所	南区東九条下殿田町	19,580.42	178	—
梅津営業所(一部を管理の受委託)	右京区西院笠目町	16,925.71	166	56
洛西営業所(全部を管理の受委託)	西京区大枝東新林町	14,115.81	102	102
横大路営業所(全部を管理の受委託)	伏見区横大路橋本	10,261.91	114	114
合 計	—	—	801	316

注1 烏丸営業所の敷地面積は、バスターミナル部分を含みます。

○ 車両工場

名 称	所在地	敷 地
自動車整備工場	伏見区竹田西段川原町	地下鉄竹田車両基地に含みます。

○ 市バス・地下鉄案内所

市バス・地下鉄の運行に係る案内(ダイヤ, 運賃, 系統, 停留所位置等)やカード乗車券の発売等を行っています。

名 称	所在地	案内時間等
交通局	地下鉄太秦天神川駅地上(SANSA右京1階)	7時30分～19時30分 (年中無休)
京都駅前	JR京都駅中央口前 バス総合案内所内	
コトチカ京都	地下鉄京都駅中央1改札口横	
北大路	北大路バスターミナル内(地下3階)	
烏丸御池駅	地下鉄烏丸御池駅構内	



市バス・地下鉄案内所
(コトチカ京都)

○ 市バス・地下鉄定期券発売所

名 称	発売日・発売時間	
四条駅	月～土曜日（祝日を除く） ▶ 7時30分～19時30分 日祝日 ▶ 9時～17時	
京都駅前		
三条京阪駅		
北大路駅		
山科駅		
竹田駅	月～土曜日（祝日を除く） ▶ 12時～19時30分 日祝日 ▶ 9時～17時	
六地蔵駅		
二条駅		
梅津営業所	月末5日～月始5日	うち月～土曜日 12時～19時30分
洛西営業所		
西賀茂営業所	月末2日～月始1日	うち日祝日 9時～17時
横大路営業所		

注1 年末・年始（12月31日～1月3日）は休みです。

注2 地下鉄のICOCA定期券（通勤・継続）については、地下鉄全駅の自動券売機で購入可能です。

イ 市バス運賃

均一運賃区間...

大人 230円
小児 120円

調整運賃区間 (均一区間外)

大人 160円～420円
小児 80円～210円

【嵯峨・嵐山地域】
平成26年3月
均一運賃区間へ移行

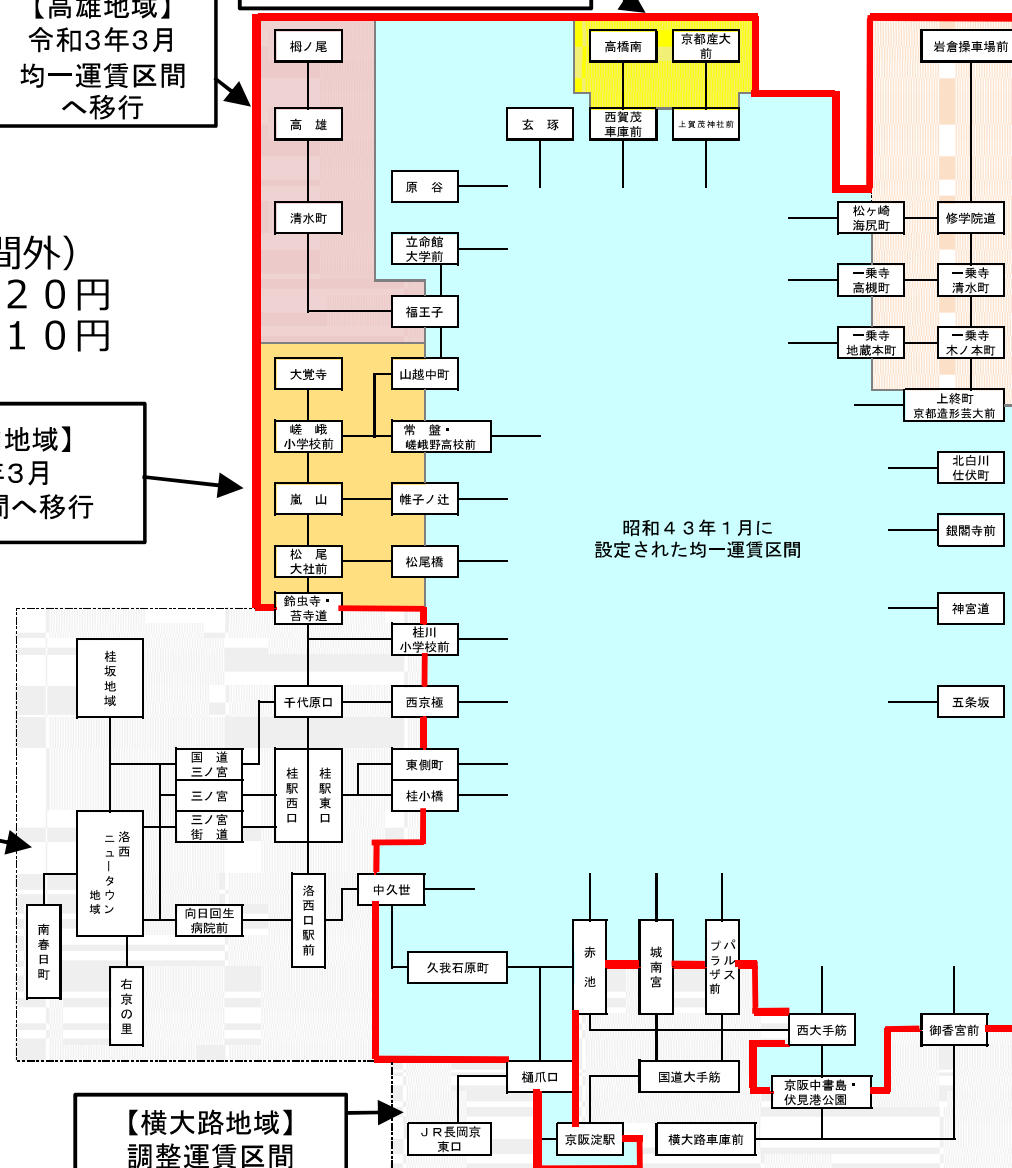
【桂・洛西地域】
調整運賃区間

【横大路地域】
調整運賃区間

【上賀茂・西賀茂地域】
平成29年3月
均一運賃区間へ移行

【高雄地域】
令和3年3月
均一運賃区間
へ移行

【岩倉・修学院地域】
平成28年3月
均一運賃区間へ移行



(2) 高速鉄道事業（地下鉄）

ア 営業設備（令和4年4月1日現在）

(ア) 路 線

区 分	烏丸線	東西線
営業路線キロ	13.7km	17.5km
駅数	15駅	17駅
駅名	国際会館、松ヶ崎、北山、北大路、鞍馬口、今出川、丸太町、烏丸御池、四条、五条、京都、九条、十条、くいな橋、竹田	六地蔵、石田、醍醐、小野、栂辻、東野、山科、御陵、蹴上、東山、三条京阪、京都市役所前、烏丸御池、二条城前、二条、西大路御池、太秦天神川
駅間平均距離	0.98km	1.09km
運転回数	国際会館～竹田(平日)165往復	六地蔵～御陵(平日)134往復 御陵～京都市役所前(平日)198往復 京都市役所前～太秦天神川(平日)187往復
路線構造	地下構造(ただし、竹田付近において一部地上)	地下構造
軌間	1.435m	1.435m
集電方式	架空線方式 直流1,500ボルト	架空線方式 直流1,500ボルト
建設費	3,053億円	5,461億円

(イ) 車 両

■ 烏丸線 20編成(1編成6両) 120両

※令和3年度から令和7年度にかけて、供用開始から40年以上を経過する9編成(54両)を順次更新

※うち、1編成について令和4年3月26日から営業運行開始



烏丸線



東西線



地下鉄の全車両に抗ウイルス・抗菌加工を施し、上記ステッカー車内等に掲出しています。

■ 東西線 17編成(1編成6両) 102両

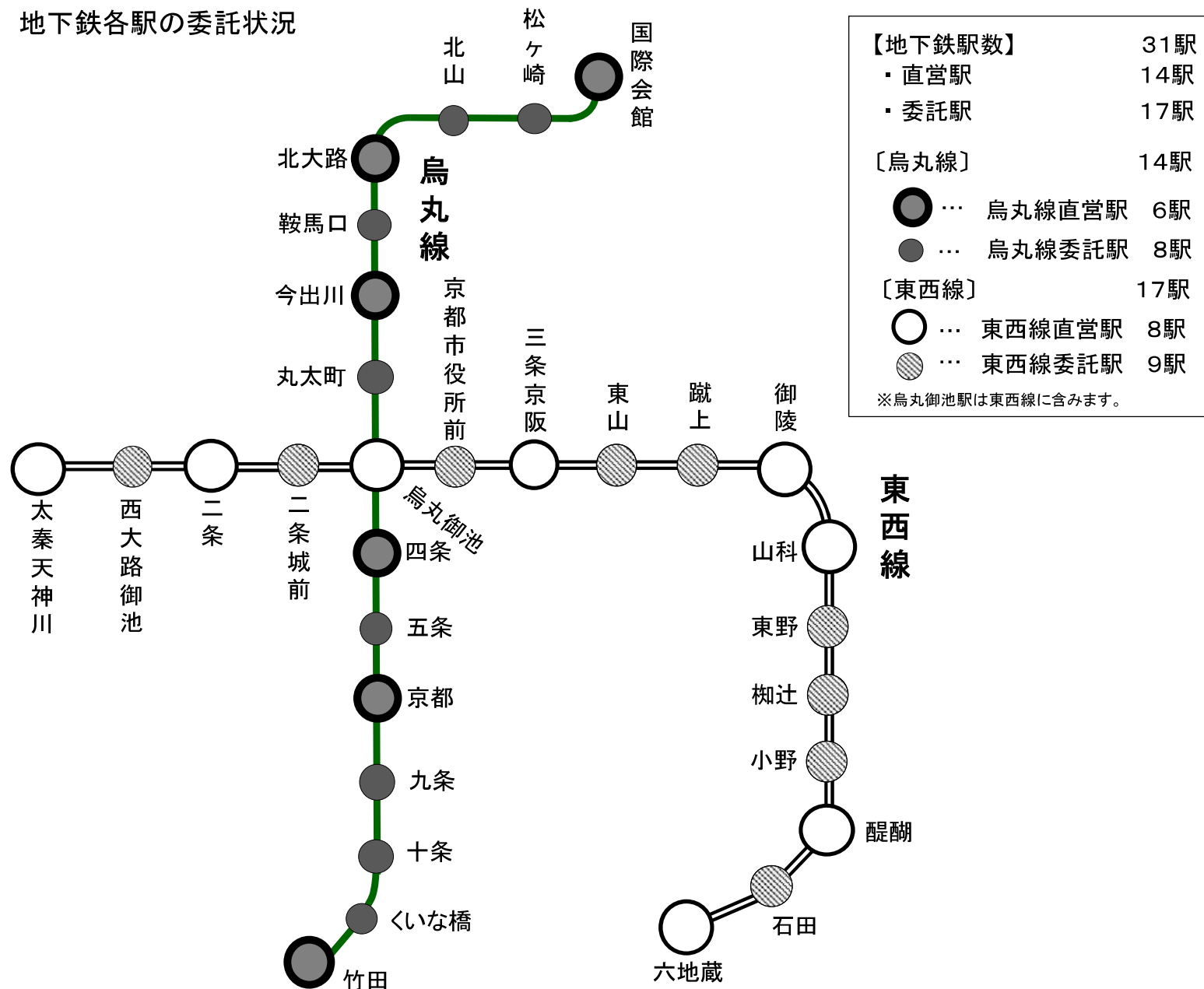
(ウ) 事業所及び施設

○ 運輸事務所及び駅

名 称	所在地
烏丸線運輸事務所	
乗務区(竹田)	伏見区竹田西段川原町
駅務区(九条)	南区東九条南烏丸町
国際会館駅	左京区岩倉大鷲町
松ヶ崎駅	左京区松ヶ崎六ノ坪
北山駅	北区上賀茂岩ヶ垣内町
北大路駅	北区小山北上総町
鞍馬口駅	上京区上御霊中町
今出川駅	上京区岡松町
丸太町駅	中京区大倉町
烏丸御池駅	中京区虎屋町
四条駅	下京区二帖半敷町
五条駅	下京区大坂町
京都駅	下京区東塩小路町
九条駅	南区東九条南烏丸町
十条駅	南区東九条南石田町
くいな橋駅	伏見区竹田中島町
竹田駅	伏見区竹田桶ノ井町

名 称	所在地
東西線運輸事務所	
乗務区(醍醐)	伏見区醍醐高畑町
駅務区(京都市役所前)	中京区下丸屋町
六地蔵駅	宇治市六地蔵奈良町
石田駅	伏見区石田森東町
醍醐駅	伏見区醍醐高畑町
小野駅	山科区小野西浦
榊辻駅	山科区榊辻草海道町
東野駅	山科区東野片下り町
山科駅	山科区安朱南屋敷町
御陵駅	山科区御陵原西町
蹴上駅	東山区東小物座町
東山駅	東山区大井手町
三条京阪駅	東山区大橋町
京都市役所前駅	中京区下丸屋町
烏丸御池駅(再掲)	中京区虎屋町
二条城前駅	中京区二条城町
二条駅	中京区西ノ京星池町
西大路御池駅	中京区西ノ京東中合町
太秦天神川駅	右京区太秦下刑部町

○ 地下鉄各駅の委託状況



○ 車両基地

名 称	所在地	敷地面積
竹田車両基地	伏見区竹田西段川原町	67,670.88m ²
醍醐車庫	伏見区醍醐高畑町	地下構造式



竹田車両基地

○ 変電所

名 称	所在地
国際会館前変電所	左京区岩倉大鷲町
北大路変電所	北区小山北上総町
姉小路変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
勧進橋変電所	南区上鳥羽勧進橋町
醍醐変電所	伏見区醍醐川久保町
山科変電所	山科区安朱中小路町
東山変電所	東山区分木町
御池変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
天神川変電所	右京区太秦下刑部町



醍醐車庫

(エ) 駅設備

○ 烏丸線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	国際 会館 〔K01〕	松ヶ 崎 〔K02〕	北 山 〔K03〕	北 大 路 〔K04〕	鞍 馬 口 〔K05〕	今 出 川 〔K06〕	丸 太 町 〔K07〕	烏 丸 御 池 〔K08〕	四 条 〔K09〕	五 条 〔K10〕	京 都 〔K11〕	九 条 〔K12〕	十 条 〔K13〕	く い な 橋 〔K14〕	竹 田 〔K15〕	計
エレベータ(基)	3	2	2	2	2	2	1	※	3	2	3	2	2	2	4	32
エスカレータ(基)	3	3	1	5	1	4	2	※	6	3	4	1	1	2	5	41
改札口(箇所)	1	1	1	2	1	2	2	※	3	2	4	1	1	1	2	24
自動券売機(台)	3	2	3	5	4	5	5	※	8	5	14	2	2	2	4	64
自動改集札機(台)	5	4	5	9	4	9	8	※	13	6	21	4	4	4	10	106
精算機(台)	2	1	1	3	1	3	2	※	4	2	7	1	1	1	2	31

注 烏丸御池駅分は、東西線で一括計上しています。

烏丸御池駅、四条駅、京都駅の3駅に可動式ホーム柵を設置しています。

○ 東西線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	六 地 蔵 〔T01〕	石 田 〔T02〕	醍 醐 〔T03〕	小 野 〔T04〕	柳 辻 〔T05〕	東 野 〔T06〕	山 科 〔T07〕	御 陵 〔T08〕	蹴 上 〔T09〕	東 山 〔T10〕	三 条 京 阪 〔T11〕	京 都 市 役 所 前 〔T12〕	烏 丸 御 池 〔T13〕	二 条 城 前 〔T14〕	二 条 〔T15〕	西 大 路 御 池 〔T16〕	太 秦 天 神 川 〔T17〕	計
エレベータ(基)	5	5	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	3	2	2	5	4	45
エスカレータ(基)	5	3	3	1	3	4	2	6	7	2	6	4	10	2	3	4	4	69
改札口(箇所)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	19
自動券売機(台)	3	2	4	2	3	2	4	2	3	3	4	3	7	2	3	2	3	52
自動改集札機(台)	5	4	5	4	4	4	6	4	4	4	7	4	9	4	5	4	4	81
精算機(台)	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	3	1	1	1	1	22

注 東西線は全駅にホームドアを設置しています。

イ 地下鉄運賃

(単位:円)

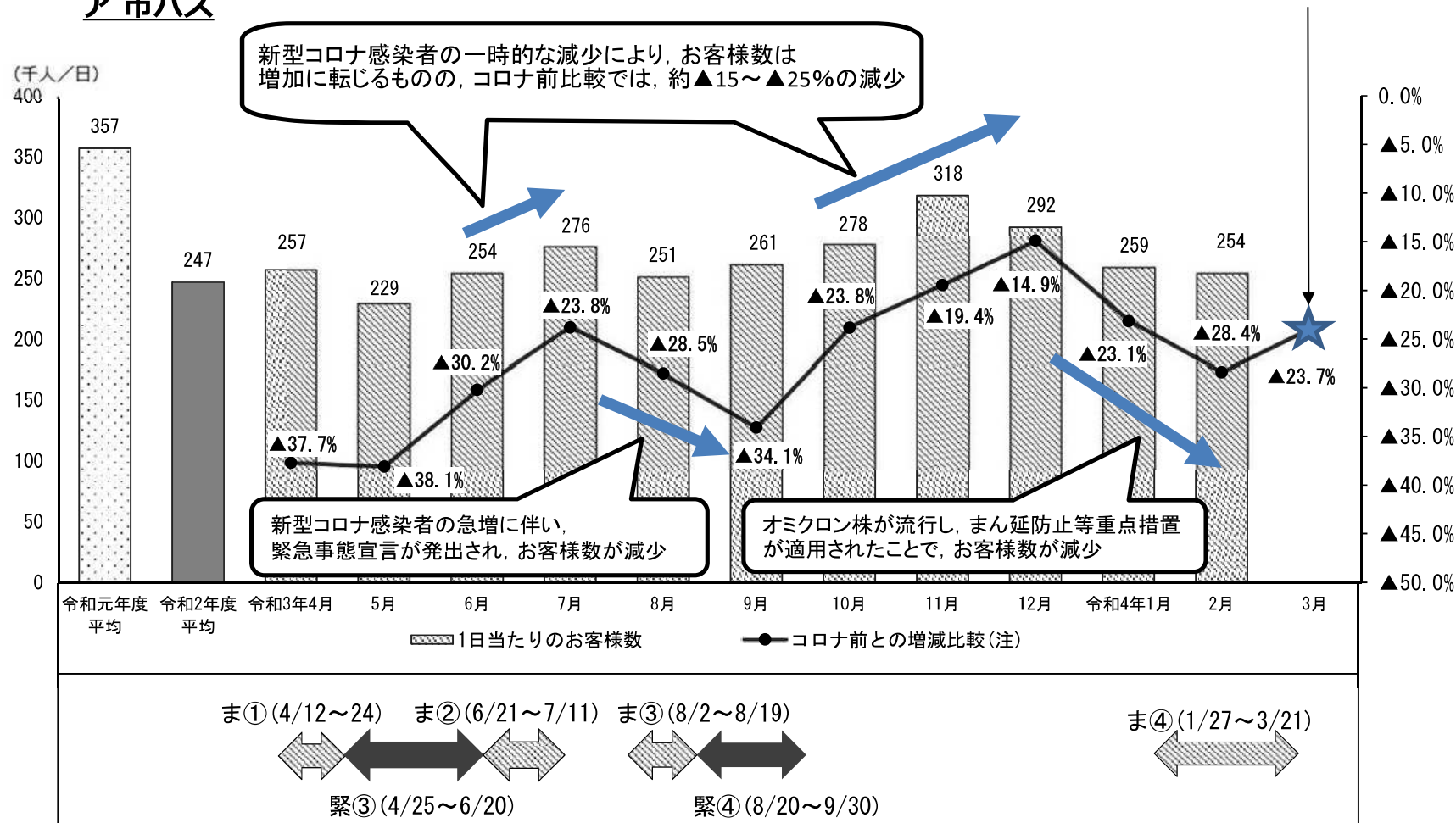
区 分	1区 (3 ^{キロ} まで)	2区 (3 ^{キロ} を超え7 ^{キロ} まで)	3区 (7 ^{キロ} を超え11 ^{キロ} まで)	4区 (11 ^{キロ} を超え15 ^{キロ} まで)	5区 (15 ^{キロ} を超える区間)
大 人	220	260	290	330	360
小 児	110	130	150	170	180

2 直近の経営状況

(1) 1日当たりのお客様数の推移（令和3年度）

ア 市バス

★R4. 3月増減率はH31. 3月と比較した速報値

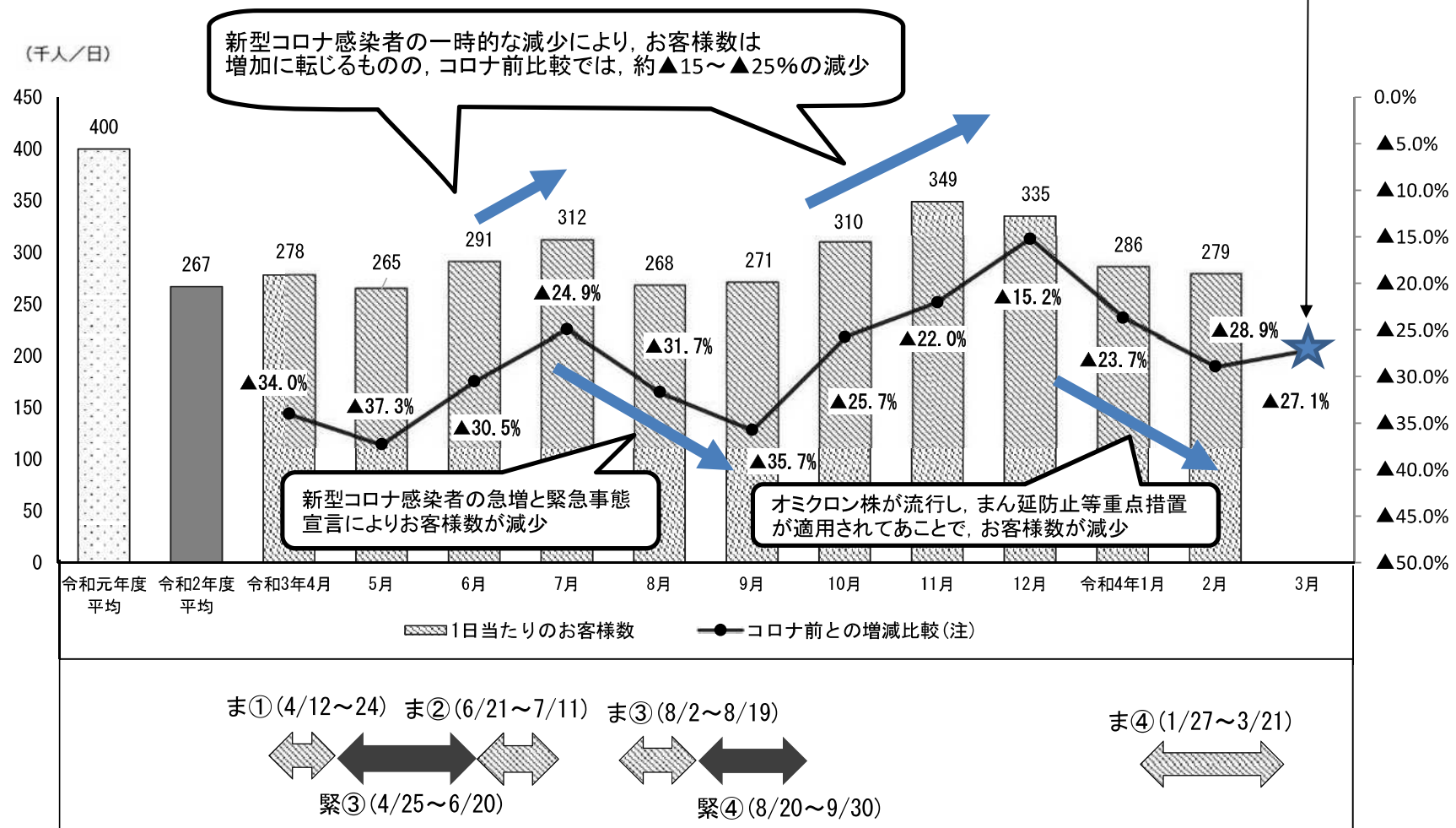


注) 令和元年度比較(ただし、2月はコロナの影響があったため平成30年度との比較)

※ ま…まん延防止等重点措置, 緊…緊急事態宣言

イ 地下鉄

★R4. 3月増減率はH31. 3月と比較した速報値



注) 令和元年度比較(ただし、2月はコロナの影響があったため平成30年度との比較)

※ ま…まん延防止等重点措置、緊…緊急事態宣言

(2) 令和3年度の決算見込み

ア 市バス

令和2年度、3年度の2年間で▲112億円の減収
地下鉄と合わせると約▲280億円の減収

(税抜)

	令和3年度決算見込み (令和4年度予算書より)	令和2年度決算	令和元年度決算
経常収入	166億円	159億円	213億円
運賃収入	148億円 【令和元年度比▲52億円】 【1日当たり ▲1,400万円】	140億円 【令和元年度比▲60億円】 【1日当たり ▲1,600万円】	200億円
お客様数	262千人／日 【令和元年度比▲26.6%】	248千人／日 【令和元年度比▲30.7%】	357千人／日
経常支出	211億円※	207億円	211億円
経常損益	▲45億円	▲48億円	2億円
企業債残高	83億円	65億円	53億円
未処分利益剰余金／ ▲累積欠損金	▲24億円	21億円	69億円
資金剰余額／ ▲累積資金不足	▲14億円	25億円	65億円

※ 執行抑制を図ったものの、自動車燃料費(3.6億円)や減価償却費等(0.8億円)の増により、令和2年度決算と比較して4億円の増となっています。

イ 地下鉄

令和2年度, 3年度の2年間で▲166億円の減収
市バスと合わせると約▲280億円の減収

(税抜)

	令和3年度決算見込み (令和4年度予算書より)	令和2年度決算	令和元年度決算
経常収入	262億円	254億円	333億円
運賃収入	181億円 【令和元年度比▲77億円】 【1日当たり ▲2,100万円】	169億円 【令和元年度比▲89億円】 【1日当たり ▲2,400万円】	258億円
お客様数	287千人／日 【令和元年度比▲28.3%】	267千人／日 【令和元年度比▲33.2%】	400千人／日
経常支出	307億円	308億円	310億円
経常損益	▲45億円	▲54億円	23億円
現金収支(償却前損益)	59億円	47億円	121億円
企業債等残高	3, 410億円	3, 432億円	3, 445億円
▲累積欠損金	▲3, 125億円	▲3, 082億円	▲3, 028億円
▲累積資金不足	▲422億円	▲371億円	▲305億円

3 令和4年度事業計画

(1) 運転計画

ア 市バス

区 分		令和4年度(A)	令和3年度(B)	比 較(A-B)
営業キロ数(km)		322	319	3
在籍車両数(両)		801	816	▲ 15
走行キロ数 (千km)	年 間	29, 748	31, 646	▲ 1, 898
	1日平均	81. 5	86. 7	▲ 5. 2
お客様数 (千人)	年 間	100, 375	97, 820	2, 555
	1日平均	275	268	7
運賃収入 (千円)	年 間	16, 863, 000	16, 441, 000	422, 000
	1日平均	46, 200	45, 044	1, 156

イ 地下鉄

(ア) 全路線

区 分		令和4年度(A)	令和3年度(A)	比 較(A-B)
営業キロ数(km)		31. 2	31. 2	—
在籍車両数(両)		222	222	—
走行キロ数 (千km)	年 間	20, 689	21, 145	▲456
	1日平均	56. 7	57. 9	▲1. 2
お客様数 (千人)	年 間	110, 960	109, 865	1, 095
	1日平均	304	301	3
運賃収入 (千円)	年 間	21, 194, 000	20, 884, 000	310, 000
	1日平均	58, 066	57, 216	850

(イ) 路線別

区 分		令和4年度	
		(烏丸線)	(東西線)
営業キロ数(km)		13. 7	17. 5
在籍車両数(両)		120	102
走行キロ数 (千km)	年 間	9, 308	11, 381
	1日平均	25. 5	31. 2
旅客数 (千人)	年 間	76, 650	50, 005
	1日平均	210	137
旅客収入 (千円)	年 間	12, 804, 000	8, 390, 000
	1日平均	35, 079	22, 987

(2) 予算概要

令和4年度は、大幅な減収を見込まざるを得ない厳しい状況の中、令和3年度に引き続き、緊縮予算を編成するが、市バス・地下鉄事業ともに大幅な赤字となる。

市民の足を守るため、持続可能な安定経営を目指し、「京都市交通局 市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」を踏まえた経営健全化策を着実に実施

- ・ 令和4年度も厳しい経営状況であるものの、安全・安心を最優先に、日々の運行に必要な車両・設備の更新や新型コロナウイルス感染症対策に要する経費はしっかりと確保
- ・ 様々な観点から業務を見直し、令和3年度に引き続き、緊縮予算を編成したうえで、民間事業者等と連携した公共交通の利用促進策を推進
- ・ 経常損益は、市バスで▲41億円、地下鉄で▲54億円の赤字、両事業ともに大幅な赤字は変わらず、累積資金不足は増大するが、国への要望により令和4年度も措置されることとなった「特別減収対策企業債」を発行し、市バスは経営健全化団体には陥らない。(地下鉄の経営健全化団体は継続)
- ・ 市民の足を守るため、持続可能な安定経営の実現に向け、御利用状況に応じた市バス運行の見直しや設備更新計画の見直し等、「市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】」を踏まえた経営健全化策を実施

ア 市バスの1日当たりのお客様数

(単位:千人/日)

	4年度 予算 A	3年度		2年度 決算	元年度 決算 C	3年度比 増減 A-B	元年度比 増減 A-C
		予算 B	見込			増減率	増減率
市バス全体	275	268	262	248	357	7 2.6%	▲82 ▲23.0%
うち定期	78	77	75	72	96	1 1.3%	▲18 ▲18.8%
うち通勤	61	63	61	63	72	▲2 ▲3.2%	▲11 ▲15.3%
うち通学(大学)	9	8	9	5	17	1 12.5%	▲8 ▲47.1%
うち定期外	124	115	111	99	187	9 7.8%	▲63 ▲33.7%

※市バス・地下鉄合計 元年度:757千人 → 2年度:515千人 → 3年度予算:569千人 → 4年度予算:579千人

イ 市バス予算の主要数値

	令和4年度予算	令和3年度予算	増減
経常収入	186億円	178億円	8億円
経常支出	225億円	232億円	▲7億円
経常損益(注)	▲41億円	▲56億円	15億円
累積欠損金	66億円	43億円	23億円
累積資金不足	49億円	30億円	19億円
年度末企業債残高	125億円	109億円	16億円

(注)経常収入と支出は税込額, 経常損益, 累積欠損金は税抜額であるため, 経常損益は経常収入と支出の差とは一致しません。

ウ 市バス事業の予算比較（前年度比）

（税込）

区 分		R4年度予算(A)		R3年度予算(B)		差引増▲減(A－B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	178	65	174	38	4	27
	う ち 運 送 収 益	168	63	164	41	4	22
	営 業 外 収 益	6	98	3	80	3	18
	う ち 一 般 会 計 補 助 金	4	30	1	09	3	21
	収 入 計	185	63	178	18	7	45
	営 業 費 用	221	96	229	41	▲ 7	45
	う ち 人 件 費	87	89	93	49	▲ 5	60
	う ち 経 費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	115	44	116	40	▲	96
	う ち 減 価 償 却 費 等	18	63	19	52	▲	89
	営 業 外 費 用	3	34	2	13	1	21
	支 出 計	225	30	231	54	▲ 6	24
経 常 損 益		▲ 41	48	▲ 55	60	14	12
純 損 益		▲ 41	48	▲ 55	60	14	12
累 積 欠 損 金		65	74	42	66	23	08
資本的収支	収 入	20	96	25	50	▲ 4	54
	う ち 企 業 債	20	27	25	05	▲ 4	78
	う ち 補 助 金		7	-			7
	支 出	34	68	38	44	▲ 3	76
	う ち 建 設 改 良 費	20	56	25	05	▲ 4	49
	う ち 企 業 債 償 還 金	13	62	12	89		73
差 引		▲ 13	72	▲ 12	94	▲	78
累 積 資 金 不 足		48	96	30	01	18	95
年 度 末 企 業 債 残 高		125	41	109	32	16	09

※経常損益、純損益、累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しません。

※R4年度予算の財政健全化法における資金不足額は特別減収対策企業債の発行(48億96百万円)により生じません。

エ 地下鉄の1日当たりのお客様数

(単位:千人/日)

	4年度 予算 A	3年度		2年度 決算	元年度 決算 C	3年度比 増減 A-B	元年度比 増減 A-C
		予算 B	見込			増減率	増減率
地下鉄全体	304	301	287	267	400	3 1.0%	▲96 ▲24.0%
うち定期	135	139	134	124	168	▲4 ▲2.9%	▲33 ▲19.6%
うち通勤	92	97	92	96	109	▲5 ▲5.2%	▲17 ▲15.6%
うち通学(大学)	24	23	24	15	40	1 4.3%	▲16 ▲40.0%
うち定期外	145	138	129	119	208	7 5.1%	▲63 ▲30.3%

※市バス・地下鉄合計 元年度:757千人 → 2年度:515千人 → 3年度予算:569千人 → 4年度予算:579千人

オ 地下鉄予算の主要数値

	令和4年度予算	令和3年度予算	増減
経常収入	287億円	285億円	2億円
経常支出	331億円	334億円	▲3億円
経常損益(注)	▲54億円	▲58億円	4億円
累積欠損金	3,179億円	3,146億円	33億円
累積資金不足	484億円	443億円	41億円
年度末企業債等残高	3,407億円	3,437億円	▲30億円

(注) 経常収入と支出は税込額, 経常損益及び累積欠損金は税抜額であるため, 経常損益は経常収入と支出の差とは一致しません。

力 地下事業の予算比較（前年度比）

（税込）

区 分		R4年度予算(A)	R3年度予算(B)	差引増△減(A-B)
収 益 的 収 支	億 百万円	億 百万円	億 百万円	億 百万円
	営 業 収 益	236 97	233 57	3 40
	う ち 運輸収益	211 94	208 84	3 10
	営 業 外 収 益	50 04	51 87	▲ 1 83
	う ち 一般会計繰入金	19 34	20 73	▲ 1 39
	収 入 計	287 01	285 44	1 57
	営 業 費 用	292 21	289 52	2 69
	う ち 人件費	59 22	60 06	▲ 84
	う ち 経費(動力費・修繕費等)	89 42	90 47	▲ 1 05
	う ち 減価償却費等	143 57	138 99	4 58
	営 業 外 費 用	39 27	44 45	▲ 5 18
	支 出 計	331 48	333 97	▲ 2 49
経 常 損 益		▲ 53 90	▲ 57 51	3 61
現 金 収 支		54 98	46 74	8 24
特 別 損 益		0	65	▲ 65
純 損 益		▲ 53 90	▲ 56 86	2 96
▲ 累 積 欠 損 金		3,178 59	3,146 43	32 16
資 本 的 収 支	収 入	249 12	305 87	▲ 56 75
	う ち 企業債	210 74	261 71	▲ 50 97
	う ち 補助金	11 58	9 32	2 26
	う ち 出資金	26 73	31 94	▲ 5 21
	う ち 固定資産売却代金	0	2 83	▲ 2 83
	支 出	380 81	434 69	▲ 53 88
	う ち 建設改良費(割賦購入費除く)	103 79	98 83	4 96
	う ち 企業債等償還金	256 67	296 25	▲ 39 58
差 引		▲ 131 69	▲ 128 82	▲ 2 87
累 積 資 金 不 足		484 10	443 25	40 85
年 度 末 企 業 債 等 残 高		3,406 72	3,437 39	▲ 30 67

※経常損益、現金収支、特別損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しません。

※R4年度予算の累積資金不足(484億10千万円)から解消可能資金不足額(396億2百万円)を除いた財政健全化法における資金不足額は88億8百万円となり、営業収益(236億97百万円の税抜額216億91百万円)に占める割合である資金不足比率は40.6%(経営健全化基準:20%)となります。

(3) 主要事項

ア 市バスの経営健全化の取組の推進

(ア) 経費削減策

- ① 御利用状況に応じた路線・ダイヤの見直しに伴う
管理の受委託の委託料や車両修繕費等の削減
(令和4年3月実施, 車両数816両→801両 ▲15両)

- ・急行系統等の休止
100, 101, 102, 105, 106, 111号等の休止
- ・深夜バスの廃止
MN17, MN204, MN205, MN特西3号の廃止
- ・運行回数に応じたダイヤ見直し
運行回数が多い系統を中心に昼間時間帯以降のダイヤを見直し
- ・民間バス事業者との連携強化
京都バス(北3, 86号) JRバス(快速立命館号)

② 人件費の抑制

- ・御利用状況に応じた路線・ダイヤの見直しに伴うバス運転士数の適正化
- ・営業所事務所(非乗務職員)体制の見直し
- ・時間外勤務の縮減
- ・職員の給与減額措置の継続実施

給料を減額

- ・局長級▲6.0%, 部長級▲5.5%, 課長級▲5.0%
(令和4年4月～令和5年3月)
- ・課長補佐・係長級▲3.0%, 係員(3級及び2級)▲2.5%
(令和4年4月～10月)

③ バス車両更新費用の抑制

- ・車両更新計画の見直し(当初経営ビジョン60両→41両)
- ・リースによるバス車両の調達(新たに2両)

④ バス待ち環境の整備費用の抑制

- ・バス停上屋等の新規整備の延期
- ・バスロケーションシステム等の更新数の抑制

⑤ 観光等案内費用の見直し 等

【市バス予算の経費削減状況】

(単位: 百万円)

	削減額
○ 御利用状況に応じた路線・ダイヤの見直しに伴う 管理の受委託の委託料や車両修繕費等の削減	▲205
・管理の受委託の委託料の削減	▲94
・燃料費の削減	▲69
・車両修繕費等の削減	▲42
○ 人件費の抑制	▲385
・御利用状況に応じた路線・ダイヤの見直しに伴う バス運転士数の適正化	▲233
・営業所事務所(非乗務職員)体制の見直し	▲37
・時間外勤務の縮減	▲76
・職員の給与減額措置の継続実施	▲39
○ バス車両更新費用の抑制	▲392
・車両更新計画の見直し(60両→41両)	▲381
・リースによるバス車両の調達(新たに2両)	▲11
○ バス待ち環境の整備費用の抑制	▲47
・バス停上屋等の新規整備の延期	▲31
・バスロケーションシステム等の更新数の抑制	▲16
○ 観光等案内費用の見直し等	▲104
合 計	▲1,133

(イ) 収入増加・利用促進策

- ① 割引乗車券等の抜本的な見直し(ポイントサービスの導入)
 - ・ポイントサービスの導入(令和5年4月)及びサービス登録促進活動の実施
 - ・従来のICカード乗継割引, PiTaPa利用額割引制度等の廃止
- ② 新規媒体導入等の広告料増収策の実施
- ③ 京都市観光MICE推進室や京都市観光協会, 民間事業者との連携による観光客誘致の取組の推進
- ④ 定期券等の利用促進に繋がる取組の実施
 - ・定期券の利用促進に向けた大学や企業等との連携強化
 - ・定期券購入者向けサブスクリプションの試行実施【新規】
 - ・公営交通110周年を記念したオリジナルグッズの販売や利用促進に向けたスタンプラリーの実施
- ⑤ 市バス旅客流動調査結果の分析と路線・ダイヤ再編の有識者会議の開催
- ⑥ 市バスの運行情報のオープンデータ化を目指したシステムの構築

時刻表やバス停留所等の情報を, 国土交通省が定める標準フォーマットとして整備し, 令和5年度のオープンデータ化を目指す。

(ウ) 国の支援制度の活用

① 特別減収対策企業債の発行

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う減収により生じた資金不足に対して特例的に発行が可能
- ・令和4年度の制度継続が実現

- ② 新型コロナウイルス感染症対策経費に対して一般会計から「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を財源とした繰入金収入

③ 要望活動を継続

イ 市バスの安全対策の推進

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策

- ① 換気扇の増設, 抗ウイルス・抗菌加工等, 感染防止対策に配慮した仕様の市バス車両の導入(更新車両分)
- ② 市バス・地下鉄案内所, 定期券発売所へのアルコール消毒液の設置
- ③ 職員感染防止対策用の抗原検査キットの購入

(イ) 安全性確保が必要なバス停留所の安全対策

(ウ) バス車両のドライブレコーダーの更新

- (エ) 安全運転訓練車や外部機関を活用した事故防止研修の継続実施

ウ 地下鉄の経営健全化の取組の推進

(ア) 経費削減策

- ① 御利用状況に応じたダイヤの見直しに伴う動力費の削減（令和4年3月・秋頃実施）

お客様の御利用が減少している昼間時間帯及び夜間時間帯のダイヤを見直し

② 人件費の抑制

- ・御利用状況に応じたダイヤの見直しに伴う乗務員数の適正化
- ・駅有人改札業務の見直し（有人改札口のリモート化）
- ・時間外勤務の縮減
- ・職員の給与減額措置の継続実施

給料を減額

- ・局長級▲6.0%，部長級▲5.5%，課長級▲5.0%（令和4年4月～令和5年3月）
- ・課長補佐・係長級▲3.0%，係員（3級及び2級）▲2.5%（令和4年4月～10月）

③ 駅等清掃業務の見直し

④ 保守管理等業務の見直し

⑤ 改集札機の更新台数の見直し 等

【地下鉄予算の経費削減状況】

（単位：百万円）

	削減額
○ 御利用状況に応じたダイヤの見直しに伴う動力費の削減	▲13
○ 人件費の抑制	▲82
・御利用状況に応じたダイヤの見直しに伴う乗務員数の適正化	▲37
・駅有人改札業務の見直し（有人改札口のリモート化）	▲6
・時間外勤務の縮減	▲4
・職員の給与減額措置の継続実施	▲35
○ 駅等清掃業務の見直し	▲17
○ 保守管理等業務の見直し	▲31
○ 改集札機の更新台数の見直し等	▲249
合 計	▲392

(イ) 収入増加・利用促進策

- ① 割引乗車券等の抜本的な見直し（ポイントサービスの導入）
 - ・ポイントサービスの導入（令和5年4月）及びサービス登録促進活動の実施
 - ・従来のICカード乗継割引、PiTaPa利用額割引制度等の廃止
- ② 小規模スペースを有効活用した駅ナカビジネス増収策の実施
- ③ 新規媒体の導入等による広告料増収策の実施
- ④ 京都市観光MICE推進室や京都市観光協会、民間事業者との連携による観光客誘致の取組の推進
- ⑤ 定期券等の利用促進に繋がる取組の実施
 - ・定期券利用促進に向けた大学や企業等との連携強化
 - ・定期券購入者向けサブスクリプションの試行実施【新規】
 - ・公営交通110周年を記念したオリジナルグッズの販売や利用促進に向けたスタンプラリーの実施

(ウ) 国の支援制度の活用

① 特別減収対策企業債の発行

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う減収により生じた資金不足に対して特例的に発行が可能
- ・令和4年度の制度継続が実現

② 新型コロナウイルス感染症対策経費に対して一般会計から「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を財源とした繰入金を収入

③ 要望活動の継続

エ 地下鉄の安全対策等の推進

(ア) 新型コロナウイルス感染症対策

- ① 烏丸線新型車両（2編成）、地下鉄駅トイレへの抗ウイルス・抗菌加工の実施
- ② 地下鉄券売機及び精算機への抗菌シートの設置
- ③ 地下鉄駅構内の定期消毒の実施
- ④ 地下鉄駅や市バス・地下鉄案内所、定期券発売所へのアルコール消毒液の設置
- ⑤ 職員感染防止対策用の抗原検査キットの購入
- ⑥ 駅有人改札業務の見直し
（有人改札口のリモート化）【再掲】

(イ) 烏丸線新型車両の導入

令和3年度：1編成 令和4～7年度：各年度2編成

(ウ) 烏丸線新型車両への車内防犯カメラの設置【新規】

令和4年度：3編成 令和5～7年度：各年度2編成

(エ) 北大路駅への可動式ホーム柵設置

令和4年度供用開始予定

(オ) 駅出入口への止水板設置による浸水対策の強化

醍醐駅・太秦天神川駅（設計）
烏丸御池駅・四条駅・五条駅（工事）

(カ) 省エネ対策の実施

駅舎等照明のLED化の推進

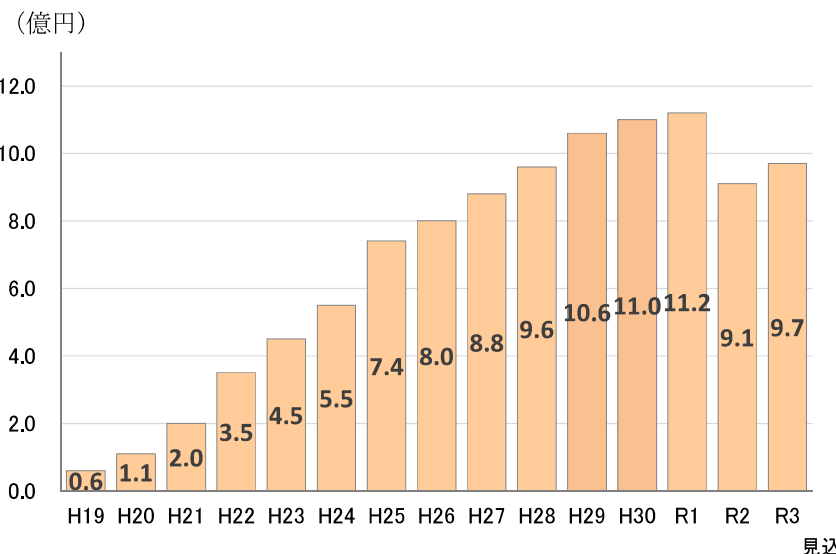
烏丸御池駅・蹴上駅（設計）、松ヶ崎駅・三條京阪駅・二条駅・烏丸線トンネル（工事）

4 附帯事業

(1) 駅ナカビジネス収入額の推移

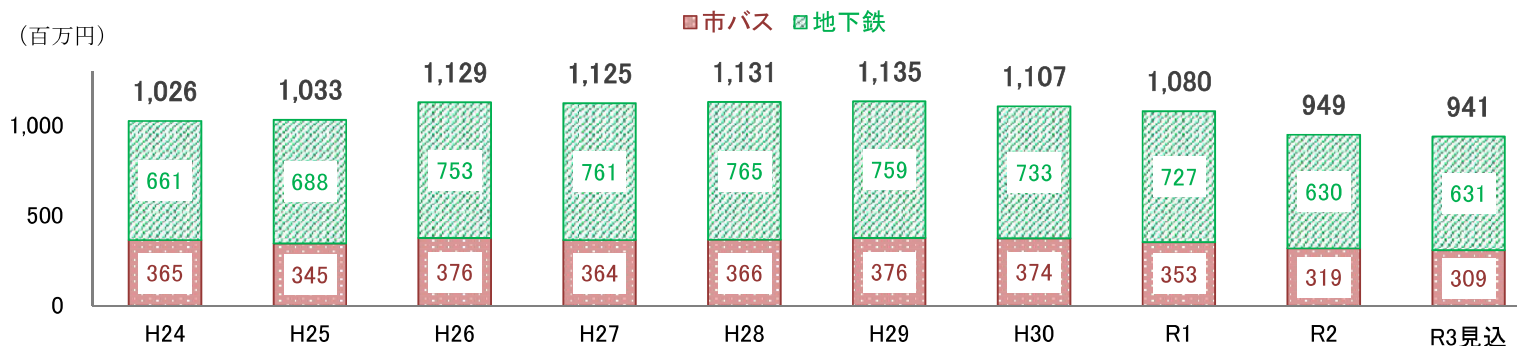
駅ナカビジネスによる年間収入について、令和3年度は店舗の撤退等による減少があったものの、店舗及び自販機の売上が伸長したことや昨年度実施した賃料減額の反動増、イベントスペースの利用増等により、令和2年度比で約7%増加し、約9.7億円となる見込みです。

- ・地下鉄駅構内への「コトチカ」の展開
⇒四条(H22)、烏丸御池(H23開業、H27増床)、
京都(H24開業、H28増床)、
三条京阪(H25)、山科・丸太町(H26)、
今出川(H27)、北大路(H29)など
現在、簡易店舗を合わせて12駅に47店舗を展開(R4. 4月現在)
- ・その他、自動販売機、ATMなどの利便施設を設置



(2) 広告料収入の推移

市バスのラッピングバスや地下鉄の駅・車内広告の販売促進、デジタルサイネージなど新たな媒体の導入にも取り組み、収入確保に努めていますが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響が拡大し、令和2年度は令和元年度比で約12%減少、令和3年度はさらに約1%減少し、約9.4億円となる見込みです。



※ 百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

5 職員数（令和4年4月1日現在）

（人）

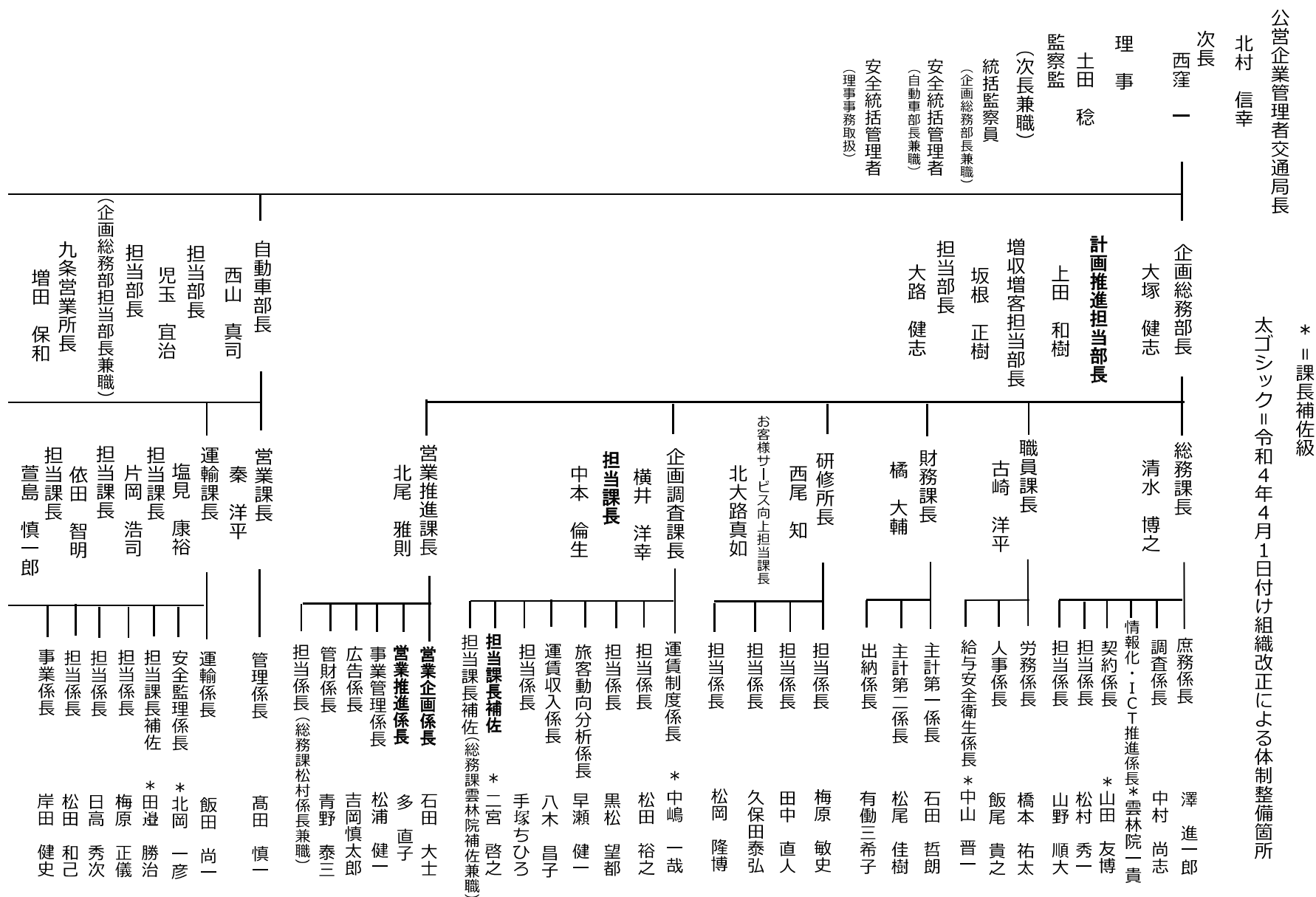
区 分	企画総務部	自動車部	高速鉄道部	合 計
公 営 企 業 管 理 者	1			1
局 長 級	2			2
部 長 級	4	3	1	8
課 長 級	8 (1)	16 (1)	11	35 (2)
補 佐 級	5	4 (1)	6	15 (1)
係 長 級	23 (5)	36 (1)	37 (1)	96 (7)
事 務 ・ 技 術 職 員 等	74 (26)	151 (11)	350 (17)	575 (54)
運 転 士 ・ 車 掌	0	900 (22)	200 (18)	1,100 (40)
合 計	117 (32)	1,110 (36)	605 (36)	1,832 (104)

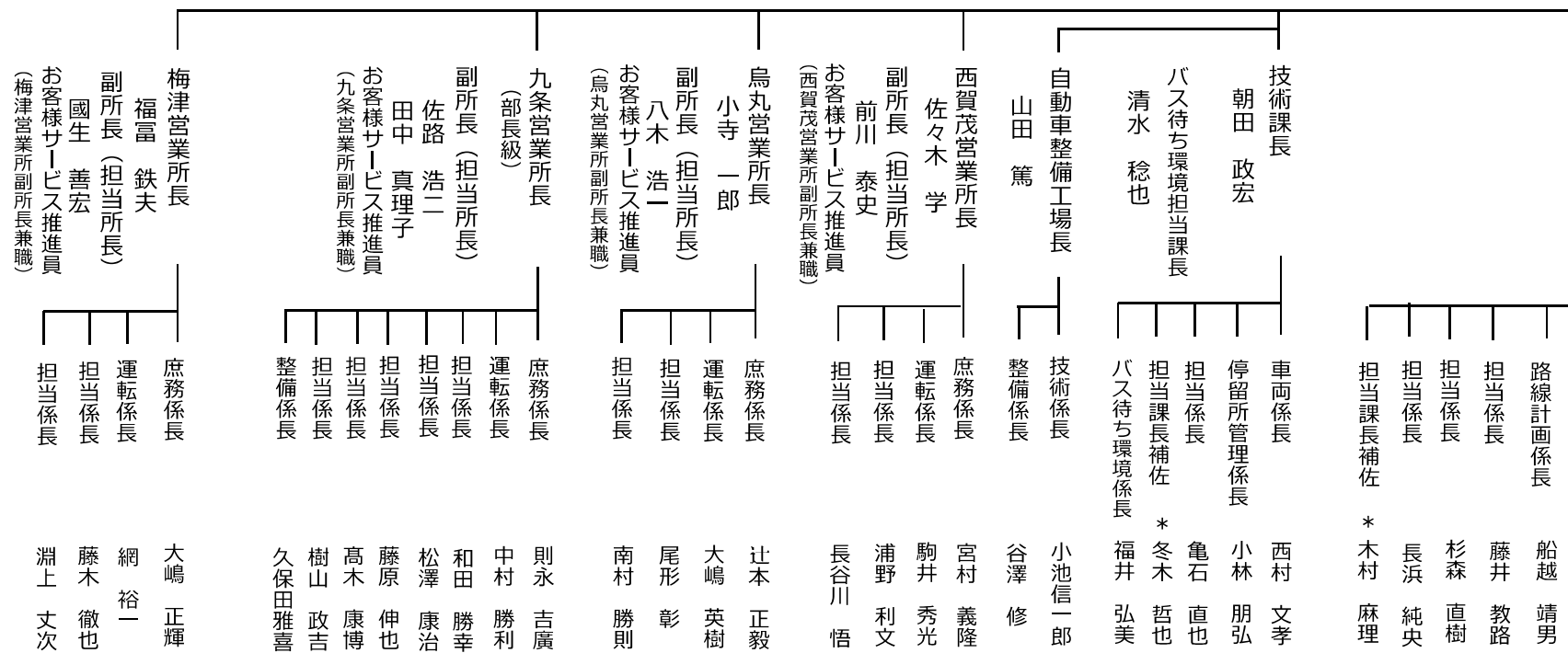
※1 職員数は常勤職員及び会計年度任用職員の人数です。

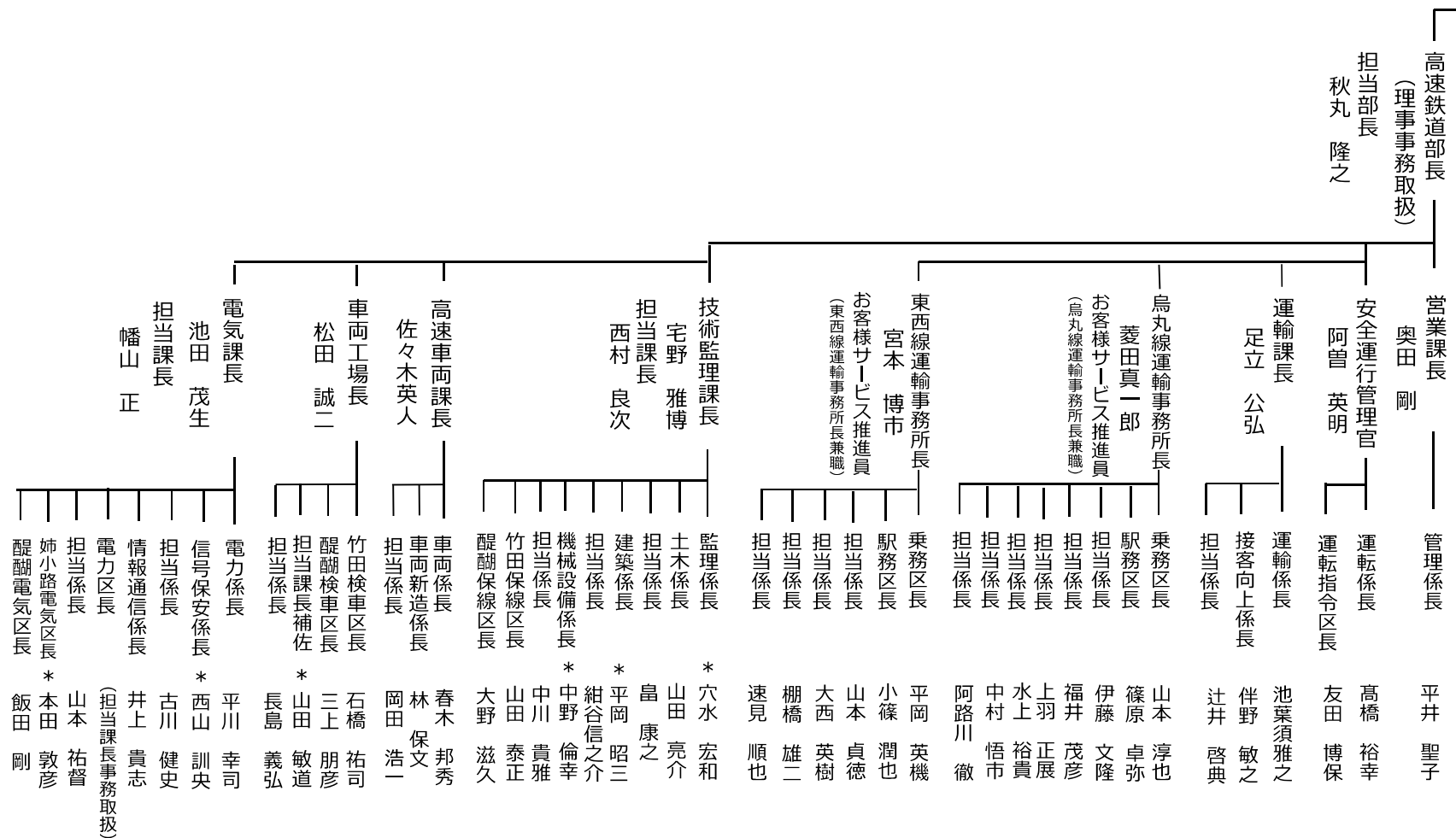
※2 括弧内は内数で女性職員の人数です。

※3 「公営企業管理者」及び「局長級」は企画総務部の職員数として「合計」欄に計上しています。

6 機構（令和4年4月1日現在）







(参考) 令和4年4月1日付け組織改正について

＜経営健全化推進のための体制整備＞

1 経営ビジョンの推進

経営ビジョンの策定を担当する部長、課長及び係長ポスト（各１名）については、本年度にその役割を終えたため、廃止します。令和４年度は、改訂した経営ビジョンに掲げる運賃収入の増加に向け、運賃制度全般の在り方を検討するため、部長、課長及び係長ポスト（各１名）を新設するとともに、当該業務を所管する営業調査課について、「企画調査課」に改称します。

2 お客様増加策の推進

「地下鉄・市バスお客様1日80万人」に向けた全庁体制での取組をはじめ、大学や商業施設、集客施設等の民間事業者が参画する「チーム『電車・バスに乗るっ』」の活動など、お客様増加策を推進するため、企画総務部営業推進課に「営業企画係長」及び「営業推進係長」を新設します。

	(併任)	
同	行財政局防災危機管理室担当部長	
同	保健福祉局医療衛生推進室担当部長	
同	都市計画局歩くまち京都推進室担当部長	
同		担当課長
同	文化市民局市民スポーツ振興室担当部長	担当課長補佐
同		担当課長

企画総務部長
企画総務部長
企画総務部長
自動車部担当部長
自動車部運輸課担当課長
自動車部運輸課担当課長補佐
自動車部長
高速鉄道部長（理事事務取扱）
自動車部運輸課長
高速鉄道部運輸課長

足立 塩田 西山 木村 萱島 大路 大塚 大塚
公弘 康裕 稔 真司 麻理 慎一郎 健志 健志 健志 健志